

BricsCAD ボーナスツール

BricsCAD 環境設定引継ぎ ツール



・概要

本ツールは同一の PC で BricsCAD の旧バージョンのプロファイル（環境）を新バージョンに引き継ぐためのツールです。

BricsCAD の新バージョンと旧バージョンが混在インストールされている状態では、新バージョンの初回起動時にプロファイルなどの設定を新バージョンに移行するかどうか、確認のメッセージが表示されます。

この時、環境を移行しなかった場合、後から設定を引き継ぐことができません。

BricsCAD NW (BricsCAD ネットワーク版クライアントインストーラ) のインストール時には旧バージョンが（デフォルトで）アンインストールされます。その為、旧バージョンの環境移行を行うことができません。

本ツールでは、旧バージョンをアンインストール後でも、旧バージョンのプロファイルの新バージョンの BricsCAD に移行することができます。

ダウンロードファイル：BMig.zip

ダウンロードファイルを展開します。

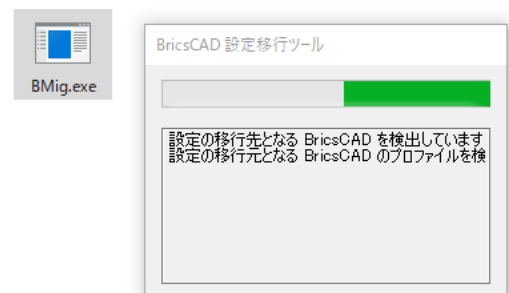
プログラム名：BMig.exe

・事前準備

展開した BMig.exe をデスクトップにコピーします。

・使用方法

1. BMig.exe をダブルクリックします。
2. 旧バージョンの環境（プロファイル）が移行されます。



移行対象プロファイル

- ・ ログオンユーザのすべてのプロファイル
- ・ ログオンユーザの LocalRootFolder ※1
- ・ ログオンユーザの RoamableRootFolder (default.cui と tipofday.txt *.lnk は除く) ※2
- ・ メイン cui ファイルに読み込まれていた部分 cui ファイル ※3

※1 LocalRootFolder は、主にテンプレートがコピーされるフォルダです。

※2 RoamableRootFolder は、メニューなどがコピーされるフォルダです。

※3 旧バージョンのメイン cui ファイル（後述）をカスタマイズしていた場合、その内容は新バージョンのメイン cui ファイルに引き継ぎません。

部分 cui については、新バージョンでも部分 cui として読み込まれた状態となります。

・インストール先がデフォルトでは無い場合のプロファイルの移行

旧バージョンのインストールの既定値 (V24 の例)

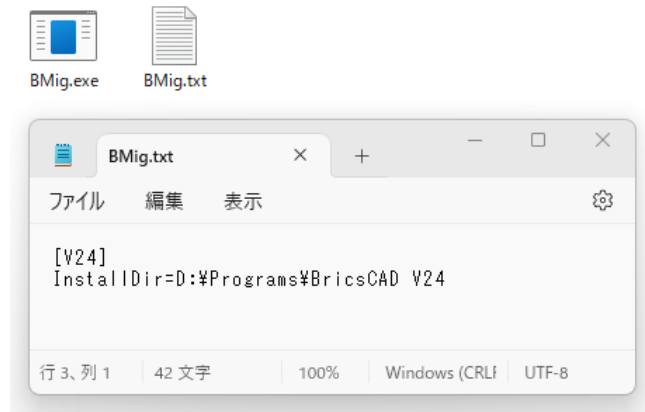
「%Program Files%\Bricsys\BricsCAD V24 ja_JP」(V24 の部分はバージョンによって変わります)

旧バージョンのインストール先が上記のデフォルト (既定値) では無い場合、任意に指定する必要があります。

1. BMig.exe と同じ場所にメモ帳などで BMig.txt を作成します。
2. BMig.txt を開き下記のように記述します。(インストール先: D ドライブの例)

[V24]

InstallDir=D:\Programs\BricsCAD V24



バージョンをセクション名とし、“InstallDir” をキーとして、インストール先のフォルダをフルパスで記述します。但し、そのバージョンの BricsCAD が規定のフォルダにインストールされている場合、インストール先は設定ファイルでは無くレジストリから取得されます。

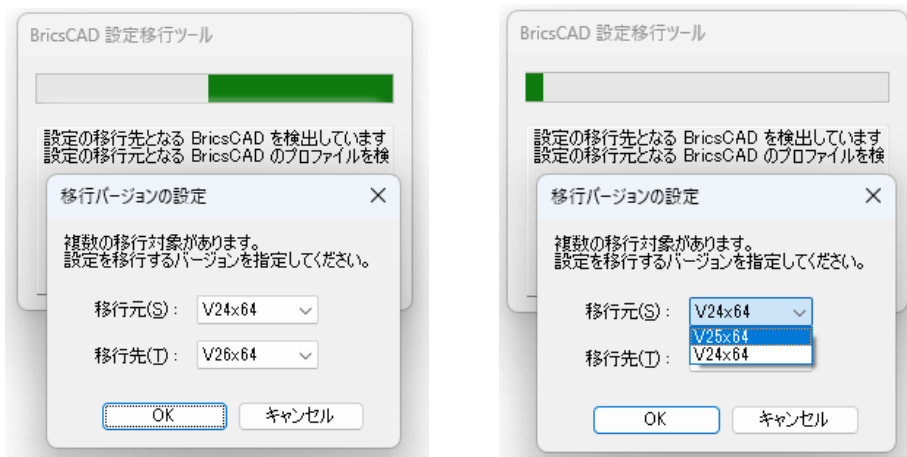
・複数のバージョンがインストールされている場合の移行

移行元または移行先のバージョンが複数存在する場合、選択するためのダイアログが表示されます。

移行元のバージョンと移行先のバージョンを選択してください。

例) V24、V25 のプロファイルが残っていて、V26 がインストールされている場合

「移行元」から V24、V25 のどちらから移行するかを選択します。



・コマンドライン オプション

コマンドプロンプトから本ツールを実行する場合、以下のコマンドラインオプションが使用可能です。

オプション	説明
/l	ログファイルのパスを指定する。指定が無いときは、「%TEMP%\BMig.log」に作成される。
/s	確認のメッセージボックスなどを出さずに実行する。
/source バージョン	移行元バージョンを指定する。(例: /source V23) サイレントモード時で指定が無いか無効な場合、インストールされている最新の BricsCAD 未満で、最も新しいバージョンのプロファイルが移行元となる。
/target バージョン	移行先バージョンを指定する。(例: /target V26) サイレントモード時で、指定が無いか無効な場合、インストールされている最新の BricsCAD が移行先となる。

複数のバージョンのプロファイルが残っている場合、コマンドラインにて “BMig.exe /source V23” 等のようにオプション指定することで、バージョンの選択画面を表示せず移行処理を実行可能です。

・部分 cui ファイルの移行

本ツールでは、部分 cui の読み込み状態も新バージョンの BricsCAD に移行します。

※ BricsCAD V26 以降でワークスペースの構造が変化しているため、部分 cui は次のように移行されます。

移行元	移行先	補足
V23 以降 - modern.cui - classic-ribbon.cui → - classic-toolbar.cui →	V24～V25 - modern.cui - classic-ribbon.cui - classic-toolbar.cui	移行元の 3 種類のメイン cui でロードされていた部分 cui を、移行先の同名のメイン cui に移行する。
V23～V25 - modern.cui - classic-ribbon.cui → - classic-toolbar.cui	V26 以降 default.cui	移行元のメイン cui (classic-ribbon.cui) でロードされていた部分 cui を、移行先のメイン cui に移行する。

・制限事項

・ ツールの実行前に、ログオンユーザで一度 BricsCAD を起動し、終了しておく必要があります。

※ LocalRootFolder と RoamableRootFolder のいずれかが無い場合、処理を中止します。

- ・ メイン cui に加えられた変更は元に戻ります。(メニューの並び替えなども含む)
- ・ 新しいバージョンのプロファイルを古いバージョンに移行することはできません。
- ・ V15 から対応のリボンメニューは引き継ぎません。

以上